

天皇ヒロヒトの死を契機に

私（たち）は訴えます。

天皇の死をきっかけにして、身のまわりの問題についてどんどん討論をし、行動を起こしていきましょう。この機会を、生活と政治を私たち民衆の側に取り戻す絶好のチャンスにしていきたいと思います。その討論や行動の柱になるであろうと考え、以下の訴えを行います。

21世紀を危機と暗黒の時代としない為に

① 天皇制のもとで行われた戦争の責任は、天皇ヒロヒトの死によっても消えることはありません。

イギリスやフランス・西ドイツなどの新聞は、今回も、はっきりと天皇ヒロヒトの戦争責任を指摘し、追及しています。また、アジア民衆・沖縄民衆・日本人の犠牲者に対する責任は、天皇制が続く限り消えることはないのです。私たちはこのことを決して忘れないし、それを忘れさせようという動きには強く反対します。

② 天皇の死をきっかけにして、元号の使用を廃止しましょう。

内閣の一部にも「この際元号をやめよう」という声があるそうです。年齢を数えるにも不便だし、また国際的にも通用しない元号制度を廃止しましょう。

③ 天皇の死を契機に、「君が代・日の丸」の使用をやめよう。

先の戦争において、アジアの民衆は君が代・日の丸の下に抑圧・虐待・虐殺されました。また、私たち日本人も、多くの犠牲者を生み出しました。日の丸・君が代は、アジア民衆にとっても私たち日本人にとっても、忘れることのできない血にまみれた「旗・歌」です。

天皇の死を契機に、君が代・日の丸を使うことをやめましょう。

もしそれに代わるものがどうしても必要なら、国民的な議論によって、将来、新しい「旗・歌」を制定すればいいことです。

④ 天皇の死を契機として、日本に今なお根強く存在している差別と人権抑圧を無くしていきましょう。

天皇制とはいうまでもなく人間に上下があることを認めさせる制度です。だからこそ天皇制は、差別の根源だといわれてきたのです。

また、戦前は、天皇の名の下に、人間を人間とも思わないような治安弾圧が行われました。それはいまなお、皇族警備などを理由にした過剰警備や人権抑圧のなかに受け継がれています。

思想・表現・信仰・結社の自由を初めとする基本的人権を擁護するとともに、在日外国人への差別・部落差別・女性差別・障害者差別をはじめとする一切の差別を根絶していきましょう。

⑤ 天皇の死を契機に軍国主義・国家主義を排し本当に世界にひらかれた日本社会をつくりあげましょう。

諸外国の人々と対等で平等なつき合いができる関係をつくりましょう。「日本は純血・単一民族国家」「天皇を中心とした伝統ある国家」といった皇国史観・排外思想をとりのぞきましょう。科学的な歴史教育の促進や靖国神社・護国神社などの廃止、アイヌをはじめとする少数民族の民族自決権の確立、在日外国人の市民的権利の拡大（指紋押捺の外登法・在日外国人の管理政策の清算）をすすめ、日米安保条約をなくし、反核非武装をすすめましょう。また、中央政府の一元支配の現状をやめ、地方の自治権と住民の自治を拡大し各地の個性ある発展をすすめましょう。

⑥ 天皇の死を契機に、日本を本物の民主主義の国に作りかえよう。

安全を全く考えることのない原子力発電所の建設、止どまるところを知らない環境破壊、食卓を飾る添加物の山、校則でがんじがらめの学校、頻発するいじめや体罰、残業や単身赴任のおしつけ、本来の意義を失ってますます御用組合になろうとしている労働組合、あたりまえの権利の要求をすることさえおしつぶそうとする政治家・資本家の圧力と「世間の目」。

他人の犠牲の上に自分の利益ばかり追い求める政治家・資本家の支配する社会はもうごめんです。民衆が相互に監視しあうようなゆがんだ社会もやめにしたいものです。

国家秘密法や冤罪の温床といわれている代用監獄（留置所）を合法化する監獄法改悪、さらに金持ばかり優遇する消費税の押しつけを葬りましょう。また、諸外国では廃止されている死刑制度をはじめとする非人間的な諸制度を撤廃しましょう。

天皇ヒロヒトの死を契機に、天皇制を廃止しよう。

敗戦のとき、日本人が最初にすべきだったことは天皇制の廃止でした。アジア民衆や日本人の犠牲者のことを考えれば、これは当然のことだったはずですが、天皇ヒロヒトが死去した現在こそ、40年も生き延びてきた天皇制を廃止する絶好の機会です。

にもかかわらず、この機会を利用して、天皇制の強化をはかろうとしているのが今の支配者たちです。

いまこそ天皇制廃止の声をあげましょう。

上の文書は、関西うねりの会が、各方面での検討と利用を要請しているものです。釜ヶ崎夜間学校は賛同し、仲間に紹介します。'88.10.7)